

オペレーションズ・リサーチ入門

計画・管理・運用の技術

近藤次郎著 NHKブックス

本書の最大の特徴はNHKブックスといういわゆる読み物としてまとめられている点であろう。かといって決して単なるお話しではなく、ORの真髄が実地的に表現されている。数式を利用しないでOR手法を説明するほど困難なことはない。それをあえてできるだけ数式を使わずにイラストなどを挿入して論を進めている点、近藤先生のご努力に敬服したい。

OR学会では創立25周年を記念して「OR事典」を編集した。ただこの事典を使いこなすにはかなりの知識を必要とする。そこでこの事典の入門ガイドとして初心者にも上級者にも、またORというものを知らない人にもわかるように工夫して書かれたものが本書である。

本書を読んだ後の印象の第1は、どのページから読み始めてもよい点である。もちろん本の全体はORが体系的にまとめられておりバラバラになっていない。しかし全体が28節に分けられており、個々に完結しているからである。第2は、今自分が抱えているある問題に対して、あ、なるほどそうか、と呼びおこす何かがある点である。その問題の具体的な解き方はまだもちろんわからないが、そのヒントを与えてくれた点である。

本書の内容は大きく分けて3つにわかれている。第1部では、「ORとは何か」ということをこの学問の発達の歴史的背景を中心に述べた部分である。ここではORの元祖といわれている数人の人物の紹介、孫子の兵法の紹介から始まり、過去ORが何のために使われてきたかを

理解するうえで興味深い。第2部は「OR手法の解説」である。ここでは最初にOR手法とその応用場面がマトリックスの形でまとめられている。そしてOR手法のいくつかの特色がとりまとめている。たとえば、「あい矛盾する効果を考慮して、中庸の正道を見出す方法である」などである。

具体的な手法としては、数理計画法、決定理論、ゲームの理論、線形計画法、動的計画法、シミュレーション、過程決定計画図、日程計画、取り替え理論、モンテ・カルロ法、待ち行列、在庫管理、信頼性、予測と予知などであり、それらが各節ごとに紹介してある。

この部分で面白いのは、一般のOR手法の記述が多くの場合数学モデルが基礎になっているのに対し、できるだけ文章や図、表、イラストでその考え方や方法を記述している点である。例題も日常生活を材料にしたものが多く各手法の本質を理解するのに役立つ。第3部は「これからのOR」として、従来からのOR手法にこだわらず、特に人間が関係するような問題の新たな解決法について紹介してある。この部分は単に手法の紹介にとどまらず、われわれORワーカーにとってORの適用の展開あるいはORの発展を考えるうえで参考にすべき所であろう。また著者のお考えが十分に表現されているところでもあろう。

以上のような構成でページ数は225ページ、文章はタテ書きであるし、筆者には失礼かも知れないが電車の中でも手軽に読める。また最初から順番に読まなくても全体が28節に細分化されているのでどの節でも独立して読むことができる。とにかく学生でも企業の方でもこの本を読んでいただければORは何も専門家だけのものではないことがわかっていただけると確信する。(城 信雄)

編集後記▶1980年も終りに近づき、編集の反省のときでもあります。モニターの方々からはほぼ合格点をいただいているが、「発散傾向で焦点がない」というかげの声もちらほら。「第三の波」ではないが、人類はいま歴

史の大きな転換期にきています。この中にあってOR誌も「OR馬鹿」(トップの視点参照)にならないよう、激動する現実柔軟に多様な対応をしているのです、と言え言訳になるでしょうか。(T)

オペレーションズ・リサーチ

昭和55年12月号 第25巻(新シリーズ第5巻) 12号 通巻240号

代表者 松田武彦

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113

編集人 高橋 啓 郎

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円(郵送料含) 年間予約購読料 7200円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日経弘報社(563-2241)、明報社(571-2548)へ